

社会福祉原論 (職業指導を含む)

科目コード

CA3104



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
4	R or SR (講義)	2年以上	田中 治和

※会場によりスクーリングを別教員（元村智明先生）が担当いたします。

科目の概要

■科目の内容

社会福祉にかかわる全般的な基礎知識の学修と、社会福祉観の変遷についての理解を目的とします。“社会福祉”という言葉は広く使われるため、その実態の学問的把握は曖昧になりやすく、ともすると主観的な幸福論や通俗的な人生論に終始しやすいためとされます。しかし、多種多様な社会福祉事象および具体的な社会福祉実践の本質は、まぎれもなく他者の人生へのかかわりであり、理念的には人類史上の文化的創造の営為の一つとも解せず。したがって、「社会福祉原論」では社会福祉に関する専門用語・知識の確認に留まらず、常に「社会福祉とは何か」「社会福祉をいかに捉えていくのか」等を思考しながら学修することを望みます。大切なことは、自らの社会福祉観の涵養^{かんよう}にあるといえます。

■到達目標

- 1) 社会福祉の全般的な基礎知識（社会福祉士・精神保健福祉士国家試験科目『現代社会と福祉』の合格水準）を解説できる。
- 2) 社会福祉の歴史の概要を説明することができる。
- 3) 社会福祉の思想に関して理解し、説明することができる。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 4 現代社会と福祉（第4版）』中央法規出版、2014年（第4版でなくても可）

（最近の教科書変更時期）2014年4月

（スクーリング時の教科書）

【各会場共通】上記教科書を参考程度に使用します。旧版を所持している場合も受講に支障がないよう資料を配付します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価60%＋スクーリング評価 or 科目修了試験40%

■参考図書

厚生統計協会編『厚生指標・臨時増刊 国民の福祉と介護の動向』各年度版その他、より詳細な参考図書は、スクーリング時に適宜紹介します。

■履修上の注意

2015年度以降入学者は、この科目を高等学校教諭一種免許状（福祉）取得に必要な「教科に関する科目」として使用することはできません。

スクーリング

▶仙台・オンデマンド・ビデオ開講分 田中 治和

■スクーリングで学んでほしいこと

自らの社会福祉観を問い直しながら、社会福祉のあるべき姿について他人事ではなく自分事として考えてみたいと思います。具体的には以下の3点について検討することによります。

- (1) 社会福祉とは何か（基本的性格、存立の根拠、そこに包摂される理念や原理、原則などを含む）
- (2) 社会福祉が歴史的社会的にどのようにして形成され発展してきたか。
- (3) 社会福祉の援助活動の思想・理念について、考察する。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	社会福祉とは	正村公宏の所説、および拙稿を用いて、社会福祉の概念の説明
2	社会福祉の歴史①	社会福祉史の概略の説明と日本の社会福祉史の骨格の説明
3	社会福祉の歴史②	慈善救済（恤救規則）、慈善事業、および感化救済事業の説明
4	社会福祉の歴史③	社会事業、厚生事業についての説明
5	社会福祉・公的扶助の必要性	籠山京・江口英一の所説を用いて、社会福祉等の必然性の論拠の説明
6	社会福祉の思想①	糸賀一雄の“福祉の思想”を論評
7	社会福祉の思想②	社会福祉実践の根拠、社会福祉学の視点についての説明
8	社会福祉の支援と援助の方法	支援と援助の違い、ならびに「バイステックの原則」の読み方
9	社会福祉の援助活動—“利用者本位”の批評	本田哲郎の所説を援用し、利用者本位の言説の吟味
10	社会福祉専門職の課題—人間理解の方法論序説	本田哲郎の所説を援用し、人間理解の方法つまり他者を理解するための方法
11	社会福祉学の要諦	「社会福祉学」であるための根拠を、林竹二の学問論を援用し仮説提示
12	まとめ	
13	スクーリング試験	

■講義の進め方

講義レジュメ集にもとづいて進める。教科書も適宜用いる。

■スクーリング 評価基準

授業への参加状況（40%）＋スクーリング試験（教科書、自筆ノート、配付した講義レジュメ集は、持込可）（60%）です。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

事前に教科書に目を通しておいてください。

▶東京開講分 元村 智明

■スクーリングで学んで欲しいこと

自らの社会福祉観を問い直しながら、社会福祉のあるべき姿について他人事ではなく自分事として考えてみたいと思います。特に、社会福祉の基本的視点（専門性）への理解、現代社会における社会福祉の成立根拠（必要性）への理解、社会福祉の援助原理への理解、以上を通して自らの対象認識と社会福祉観の醸成を目指します。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	社会福祉とは何か	福祉と社会福祉の差異とその必要性を考える
2	社会福祉のあゆみ①	近代以前の福祉理念と福祉実践
3	社会福祉のあゆみ②	近代社会の福祉理念と福祉実践
4	社会福祉のあゆみ③	現代社会の福祉理念と福祉実践
5	社会福祉の援助原理①	愛他理念（儒教・仏教・キリスト教）と福祉実践
6	社会福祉の援助原理②	専門職倫理、福祉の思想（糸賀一雄）と哲学（ロールズとセン）
7	社会福祉の援助論①	援助の視点（援助関係と援助モデル）
8	社会福祉の援助論②	援助の方法（個人や家族・集団・地域と援助展開）
9	社会福祉の諸理論①	戦前の政策論（福田徳三・大河内一男ら）と技術論（小沢一）
10	社会福祉の諸理論②	構造論（孝橋正一）と機能論（岡村重夫）
11	社会福祉の諸理論③	経営論（三浦文夫ら）と政策論
12	質疑応答とまとめ	21世紀社会と福祉政策
13	スクーリング試験	

■講義の進め方

上記講義内容にそって、配付資料も用いながら、講義を進めます。

■スクーリング 評価基準

授業への参加状況（40%）＋スクーリング試験（教科書、自筆ノート、配付資料は持込可）（60%）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

「社会福祉はなぜ必要なのか」「福祉と社会福祉は異なるのか」について考えて受講してください。

また、教科書の「第2章 福祉と福祉政策」「第5章 福祉政策の発展過程」「第6章 少子高齢化時代の福祉政策」「第7章 福祉政策における必要と資源」「第12章 福祉サービスと援助活動」「第14章 福祉政策の課題と展望」を一読して受講してください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：50～55時間）

講義内容をさらに発展させて、日々の時事問題に関心をもち、それが社会福祉の対象範囲となり得るか、否かについて考え続けながら他の科目を受講されてください。

レポート学習
■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	視点と枠組み (序章)	社会福祉学の原理として、また社会福祉士養成における基幹科目としての「社会福祉原論」を考える場合の視点と枠組みを理解する。	社会福祉を把握するには、他の生活保障方策との関連もあり、まずは基本的捉え方をしっかりと学習してください。レポート課題3単位めの参考としてください。
2	社会の変化と福祉 現代社会の変化と福祉 福祉政策の現代的課題 (第1章第4節・第5節)	社会福祉を理解するための社会の変化、特に人口動態の推移、及び家族形態の変化を理解する。	社会福祉は一つの社会的事象であるため、幅広い視野が必要であり、少なくとも人口の動態や家族形態の変化について学習してください。
3	福祉と福祉政策① 価値規範としての福祉 社会福祉の拡大と限定 (第2章第1節・第2節)	社会福祉の概念を、いろいろな立場からの所説を理解する。	社会福祉の概念を、いわゆる目的概念・実体概念、またいわゆる広義・狭義という区分を学習し、社会福祉の固有性について着目してください。レポート課題3単位めの参考としてください。
4	福祉と福祉政策② 施策コラボレーション としての福祉政策 社会福祉士の役割と機能 (第2章第3節・第4節)	社会福祉の概念を、他の生活保障方策との関連から理解し、社会福祉士の役割等についても確認する。	社会福祉と他の生活保障方策との関連を構造的に学習してください。レポート課題3単位めの参考としてください。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
5	社会政策と福祉政策 社会政策のなかの福祉政策 社会政策の体系と社会福祉政策 福祉政策の体系 (第4章第1節・第2節・第3節)	社会福祉の概念を、2009(平成21)年から実施された社会福祉士養成課程で用いられた“福祉政策”を軸にして理解する。	社会福祉の仕事を理解するという観点から“福祉政策”の意味について学習してください。
6	福祉政策の発展過程① 近代化と福祉政策 (第5章第1節)	社会福祉史(社会福祉の歴史)を理解する。特に古代社会の救済事業から第二次大戦終了時の厚生事業について理解する。	明治期以降の救済制度、慈善事業、感化救済事業、社会事業、及び戦時厚生事業について学習してください。レポート課題1単位めの参考としてください。
7	福祉政策の発展過程② 戦後改革と高度経済成長期の福祉政策 (第5章第2節)	社会福祉史(社会福祉の歴史)を理解する。特に、戦後社会事業から社会福祉成立に至る過程を理解する。	戦後社会事業及び高度経済成長期に成立した社会福祉について学習してください。レポート課題1単位めの参考としてください。
8	少子高齢化時代の福祉政策① 福祉政策の調整と進展 (第6章第1節)	社会福祉史(社会福祉の歴史)を理解する。特に、1970年代のいわゆる福祉元年から1980年代の社会福祉の動向を理解する。	高度経済成長期の終わりの福祉元年、そして福祉見直し論、さらに1980年代の新たな展開をみせた社会福祉を学習してください。レポート課題2単位めの参考としてください。
9	少子高齢化時代の福祉政策② 1990年代および2000年代以降の福祉政策 (第6章第2節)	社会福祉史(社会福祉の歴史)を理解する。特に、1990年代の少子高齢化社会から現在に至る社会福祉の動向を理解する。	1990年代から現在までの目白押しの社会福祉施策の動向を確実に学習してください。レポート課題2単位めの参考としてください。
10	福祉政策の関連領域① 人権擁護と福祉政策 保健医療と福祉政策 (第9章第1節・第2節)	社会福祉と関連政策を理解する。特に、人権擁護と保健医療との関連を理解する。	現代的課題である人権擁護と古くから関連の深い保健医療との関連を学習してください。
11	福祉政策の関連領域② 所得保障と福祉政策 雇用と福祉政策 教育と福祉政策 (第9章第3節・第4節・第5節)	社会福祉と関連政策を理解する。特に、所得保障、雇用、および教育との関連を理解する。	所得保障、雇用、及び教育の現状の課題を踏まえて、社会福祉との関連を学習してください。
12	福祉政策の関連領域③ 住宅と福祉政策 震災と福祉政策 (第9章第6節・第7節)	社会福祉と関連政策を理解する。特に、住宅と震災との関連を理解する。	人間の生活基盤である住宅と喫緊な課題である震災からの復旧・復興等との関連を学習してください。
13	社会福祉制度の体系 社会福祉制度の構造 (第10章第1節)	社会福祉の政策・制度・援助を構造的に理解する。	社会福祉法制度とその構造を、また体系を学習してください。社会福祉士の実務的理解には不可欠な学習となります。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
14	福祉政策の国際比較① 欧米の福祉政策 (第13章第1節)	欧米の社会福祉、主に高齢者福祉を中心に理解する。社会保障給付の動向等やスウェーデン、アメリカ、ドイツ、イギリスの実情を理解する。	国際比較することは、結局は日本の社会福祉を再確認することとなります。欧米の動向から日本の高齢者福祉を考察してください。
15	福祉政策の国際比較② 東アジア諸国の福祉政策 (第13章第2節)	東アジアの社会福祉の動向を理解する。韓国、中国、台湾の実情を理解する。	日本の介護保険制度は、東アジア諸国に影響を与えています。広範な視点からの社会福祉士のあり方についても考えてください。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
2 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
3 単位め	社会福祉の概念（定義）を他の生活保障方策（社会保障・“社会政策”）の関連から説明してください。
4 単位め	自らの“社会福祉”観をまとめてください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

※2017年度よりワープロ・パソコン印字での提出も可能になりました。

※3・4単位めは、1単位につき1,800字以上でまとめるようにしてください。

(2018年度以前履修登録者) 2019年4月よりレポート課題の1・2単位めが変更になりました。『レポート課題集2018』記載の課題でも2020年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

「社会福祉原論」は、長年にわたり社会福祉学の教育研究における不可欠な基礎科目です。しかし、「社会福祉および介護福祉士法」の施行に伴い、大学教育の観点からの「社会福祉原論」の講義は困難になっていると思われます。むしろ社会福祉士等の資格取得を目指し、国家試験受験科目の一つとして履修されている方も多いと推察しております。担当教員としては、「社会福祉原論」が、大学教育として、また国家試験受験科目〈現代社会と福祉＝本学対応科目：社会福祉原論〉としても、双方に配慮したレポート学習およびスクーリングの授業内容としたいと考えております（そのため「社会福祉原論」を履修する方は、できましたらスクーリングも、是非受講していただききたいと存じます）。

以上の点を勧案し、以下のレポート課題を設定しました。

1単位めと2単位めは、社会福祉の歴史についての課題です。社会福祉にかかわる歴史的事象の《一般的な把握と肝要な細部》を目的としております。3単位めは、社会福祉の概念の整理を目的としております。1～3単位めのレポート学習を通して、学習者に社会福祉に対する一定の心象（イメージ）が形成されればと思います。教科書を十分活用してまとめてください。

4単位めは、各自の社会福祉観の吟味を目的とします。「自分は、社会福祉をどう捉えているのか…？」です。

では、より具体的に教科書の参考頁を記載しながら、作成の要点をまとめておきます。
レポート作成においては、1～3単位めまでは教科書のみで対応できます。

1・2単位め
アドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFU オン
デマンド」上で解答することも可能です。

3単位め
アドバイス

教科書「第2章 福祉と福祉政策」の pp.32～50（第3版では第2章 pp.32～48、第2
版では第2章 pp.30～48）を要約してください（初版では第1章 pp.2～7と第9章
pp.190～195）。社会福祉の概念を社会保障（教科書では、“社会政策”）との関連からの
理解と、社会福祉の固有性の理解を目的とします。

4単位め
アドバイス

自らの社会福祉観、つまり社会福祉をどう捉えるのか、考えるのかを、まとめてくだ
さい。今後の社会福祉実践および社会福祉学の学修のための基盤づくりを目的とします。
教科書を用いるよりも、これまでのご自分の人生を通して学んだあらゆる（体験・読
書等の）見識を吟味しながら、ご自分の言葉でまとめてください（なお、事例等を記述する場合はで
きるだけ短く、また個人情報保護を十二分に留意してください）。

なお、お手数ですが必ずレポートの文末に参考文献として教科書の初版、第2版、第3版、第4版
を明記してください（平成20年度以前の履修登録者で、以前の教科書を使用の方は“旧教科書”と明
記してください。なお、評価において履修年度ならびに教科書の違いによる区別は一切ありません）。

科目修了試験

■評価基準

教科書の内容理解に努めること。